

『小学校』

1 研究主題

「ともに学び合い、高め合う児童生徒の育成を図る体育学習」
ー先生と児童が安心して行うことのできる体育の授業を考えるー

2 はじめに

近年、体育の免許を持っていない先生や、新任、少経験者の先生などが増えてきた。その結果、体育の授業を進めるにあたり安全面への不安や、指導内容のアイデアなどが課題となっている。どの先生も体育の授業を、安全に、効率的、効果的に行えるような授業のアイデアを共有し、実践することで、少しでも体育好きの子どもが増えるような授業が展開できるのではないかと考えた。

3 研究経過

4月に研究テーマの確認を行い、授業の導入部や授業の実践方法について研究を進めてきた。その運動の苦手な児童が多い種目やけがをする場面が多い種目を候補に挙げ、実践を重ねることとした。小中合同で実技研修を行ったり、各校で実際に取り組んでいることを持ち寄って「器械運動」や「ボール運動」などを実践したりしてきた。

4 研究の概要

研究テーマに沿って、その運動を苦手な児童が多い種目やけがをする場面が多い種目を候補に挙げ、安全かつ全ての児童が楽しみながら授業に参加できる授業内容の工夫を共有し実践した。

(1) 器械運動

- ・ 跳び箱の安全な設置方法の確認
→セーフティーマット、サイドのマット、距離調節器
- ・ スモールステップで活動の場を設定する
→低い段にマットをかぶせて台上前転練習
→マットの下にロイター板を入れて、坂道で後転練習
- ・ 児童がただ待っているだけの時間を少なくする工夫
→タブレット端末で動画を撮り合う
→アドバイスシートにコツを書き込む

(2) ボール運動

- ・経験者だけが活躍するボール運動にならないような工夫
→バットやグローブを使用しない、ハンドベースボール
→経験者の少ないタグラグビー
→ネット型では柔軟なルール設定が必要
→ゴールに入れなくても得点できるバスケットボール

(3) 陸上競技

- ・2人組での直線リレー・・・毎回違うペア、毎回記録測定
- ・競争を楽しむ4人組でのサークルリレー
- ・走り高跳びの安全な練習の場の設置方法の確認
- ・走り幅跳びは、砂場を横に使って、走路を増やす
- ・投運動のススメ・・・ジャベボール、紙飛行機、紙鉄砲

5 今後の課題

今後は、今年度挙げた疑問や課題に向けてのアイデアを各校で実践し、新たな課題などを全体で共有し、解決に向けて意見交換をしていく。また、次年度の実践や検証内容を決定していく。

『中学校』

1 研究主題

「ともに学び合い、高め合う児童生徒の育成を図る体育学習」

一仲間との関わりのなかで、自ら課題解決に向けた取り組みができる生徒の育成一

2 はじめに

生徒の実態に合わせて自らの課題を発見し、その課題解決に向かえるような手立てを考えることで、生徒が主体的に活動することができるだろう。そのために、生徒自身が参加しやすい場を設定することや学習カードの工夫、近年導入されたICT機器などを活用しながら、仲間と関わり合い、誰もが楽しく参加できるような授業展開を考え、実践・研究を進めていこうと考えた。

3 研究経過

4月に研究テーマの確認を行い、手立て・実践方法について検討を重ねた。各校で実践できる種目を確認し、具体的な手立てを話し合った上でそれぞれ実践を行った。単元の始め・途中・終わりとアンケートをとり、生徒の変容も把握できるよう共有した。

4 研究の概要

研究テーマに沿って、実践を行うための具体的な手立てや実践方法につ

いて検討を重ね、各校で実践を行った。

(1) 活動場所の設定

各自の運動技能向上のねらいに合わせた活動場所の設定をすることで、同じねらいをもった生徒同士が協力をし合い、課題解決に向けて意欲的に活動するだろう。

- ・チームの課題に合った練習内容を考えさせる。
- ・簡略化したルールにする。
- ・自己の課題に応じた活動場所を選べるようにする。
- ・ネットの高さやコートの大きさなどを複数用意する。

(2) ICT 機器の活用

ICT 機器を活用することで、自分と仲間の動きを比較することや、自分の動きを客観的に見るきっかけになり、仲間との動きの違いを発見したり、そこから自分やチームの動きをふりかえったりして、仲間と学び合いながら課題解決に向けた取り組みができるだろう。

- ・思考を瞬時に可視化するために動画撮影をする。
- ・ロイロノートで作戦ボードを作成する。

(3) ふりかえりの工夫

ふりかえりに、チームやペアなどの相手に目を向ける観点を作成することで、自然と周りに意識が向くようになり、アドバイスや声かけが増え、仲間との関わりから自らの課題解決に向けた取り組みにつながるだろう。

- ・ホワイトボードを使用して、チームの課題を全体に共有する。
- ・課題解決に向けて、どのような方法が有効だったか考えさせる。
- ・仲間とのアドバイスから考えたことや変容を言語化する。

上記に挙げた3つの手立ての中から各校が実践できるものを取り上げ、生徒の実態に応じて更に具体的な手立てを考えて実践を行った。

5 今後の課題

今後は、今年度行った実践を元に各校での課題を全体で共有し、課題解決のための方法を意見交換していく。また、次年度の実践内容や検証内容も決定していき、より生徒同士が学び合いながら授業の中で成長を感じられるよう検討していく。